

自然館だより

第5号

令和4年6月

発行

豊北町自然
観察指導員会

〒759-5332

下関市豊北町

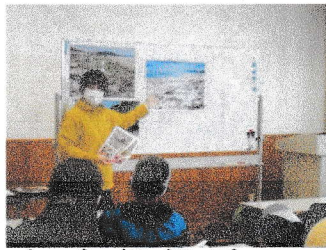
角島 893-1

つしま自然館

083-786-0430

(兼 Fax)

春の海岸野草・昆虫観察会



連休明けの五月十四日(土)、大浜海岸において、春の海岸野草・昆虫観察会を開催しました。親子連れの家族の方を含めて十四名の方が参加されました。

本日の講師は、松田真紀子さんです。松田さんは豊北町自然観察指導員会のサポーターでもあります。

最初に講義の中で先生は、市内の代表的な海岸の写真は何枚かを提示して、昆虫の探し方や野草の見方等を説明しました。

さて、いよいよ観察に出かけます。野外観察では、まず、波打ち際に打ちあがった海藻や流木をひっくり返してもらい、その下に見つかる生き物を実際に探してもらいました。

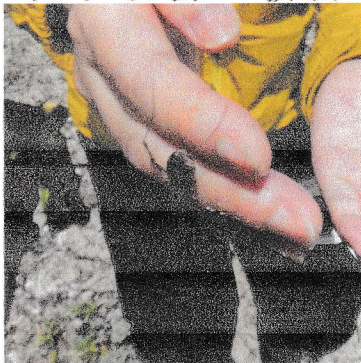


漂着物の下には、「ハマトビムシ」や「ハマダンゴムシ」、「イソミミズ」など漂着物由来の有機物などを食べる生物が多く見られます。私達人間から見ただけのゴミのようしか見えない漂着物ですが、生き物に

とっては大切な資源です。

例えば、「ヒヨ

ウタンゴムシシ」。大きな顎で「ハマトビムシ」や「ハマダンゴムシ」を捕食します。熊手のような前脚で砂に



角島の瀬戸のわかめは人のむた
荒かりしかど我とはにぎめ
詠み人知らず

万葉集 第16巻(3871)



上手に潜ります。実際に潜る様子を観察してもらおうと、子ども達は喜んで観ていました。

一方、海岸の植物も元気です。「ハマニガナ」、「ハマヒルガオ」等の群落や「オカヒジキ」、「ハマゴウ」などもあります。海岸は風が強く、砂の移動も大きいので、

しつかりと地中に

根を張らないと吹き飛ばされてしまいます。また、砂は保水力が低く、すぐに乾燥してしまいます。そのため種によっては水分を得やすくするた



過酷な環境に適応し、生息していることを理解して頂きまして本日の観察会がとても有意義なものになりました。



め頑丈な地下茎を地中に張り巡らせ、さらに、根を地中深く伸ばしています。海岸は海と陸との境界であり干潮・満潮と、日常的に潮汐の影響を強く受ける場所です。他にも塩分を含んだ強風や夏の強い日差し、砂の移動など植物や昆虫にとってはとても過酷な環境です。しかし、多くの植物や昆虫がその



ナベヅル北帰行終える



つしま自然館に設置した周南市八代のナベヅルの掲示板です。ナベヅルの北帰行のルートも載せています。

令和三年度、周南市八代のナベヅルの渡来状況です。令和三年十月二三日(土)、第一陣が渡来しました。期間中の最大渡来数は二八羽でした。(ツルの里HPより)
 指導員会の広瀬会長は三月一六日(水)、角島において、二羽の北帰行するナベヅルを確認したと言う事です。(北帰行追跡プロジェクトへの報告より)
 四月一日、北帰行は無事終了しました。
 今秋も、ご期待ください。

ダルマガクの挿し木をしました



豊北町自然観察指導員会では、数年前から県の許可を得て、牧崎の一面に畑を造り、ダルマガクの苗を自然館から移植してきました。昨年は、旧角島小学校の花壇にある苗を移植しましたが、将来的には足りなくなるので、何とか少しずつでも増やしていきたいという願いを込めて今年から取り組み始めました。
 久村会員の発案で始めることにしました。現在は、根付かせるために、小まめに水やりをしながら生長するのを見守っています。
 今秋も、島の小・中学生とダルマガクの植苗を行う予定です。